

限られてゐる、併し一月のことであるから暖かな處をまづ紹介しやう。

一月の寫生地としては、伊豆方面が一番よい様に思ふ。伊豆は天城手前もよく、天城を越へてもよい。東海道鐵道三島驛で大仁行に乗換へる、此間には遠く白峯も見え富士も見えて景色の面白い處もある。大仁驛近くでは、修善寺温泉が畫境に富むてゐる、氣候も大して寒くはなく、風も強くはない、桂川の流れに沿ふてゆけば、小さなスケッチ場處はいくらでもある。修善寺の先に吉奈といふ温泉場がある。こゝは四方の山も低く、平凡で、且、水が乏しいから、氣に入つた場所は見出せない。私の紹介したのは、それよりまだ先の湯ヶ島で、こゝも温泉場ではあるが、風俗も修善寺あたりよりよく、質素で吾々の滞在に適する。天城山麓で、あまり風は吹かない。南伊豆のやうに暖かではないが、手袋襟巻なして夕方迄戶外寫生は出来る。材題は、まづ第一に目につくのは、黄に輝やく枯草山で、次は狩野川の溪谷の水である。枯草山は往々高原を成してゐて、富士を遠望に、廣濶雄大な景を見る、また一里程上れば海も見えて、一層壯大の觀がある。

是等の草山には、所々草の塚があつて、中心の棒は高く、三三五々風情をなし、西日をうけた影など、特に面白い。川には大小の岩もある。激流も緩流もある。落葉樹の林、常磐木の森もある。風致あつた竹藪も、趣多き農家もある。温泉宿の立並ぶ中を、高く架つてゐる橋も畫中のもので、道路山水も二三枚は出

來やう。

暖かい處だけに、椿は紅みに到る處目につく。下流五六丁をゆくと、景色が廣くなつて、田甫の枯草など、好畫題に數へることが出来る。天城山さして上ければ、途中淨蓮の瀧がある、形のよい瀧で、冬見ても悪くはない。山麓の平原は、處々杉の森があり枯野の一筋道を馬や牛が通つてゐる。

湯ヶ島から二里、天城山中には八丁池といふのがあつて、冬は一面に結氷で閉ぢられてゐるが、其光景も中々面白い。

湯ヶ島には宿屋が澤山ある。瀬古の湯の方へゆけば、僅かな費用で滞留することが出来る。落合樓、湯本屋などいふ、此地一流の家でも、一日六七十錢で居られる。



非力の者が強力の敵に向ふに、己れの身を全ふして其敵に勝たうと思ふのは無理だ。此際自分の身も殺される氣で、敵を斃す決心、即ち死身しにみになつて掛れば、必ず其敵を斃し得べく、また自分の身に害を受けない事もあらう。

繪でも同様だ、自分の技術に及ばないやうなものも、時として試みなければ進歩しないが、このやうな場合、その繪を立派に畫き上げやうなど思ふと却而失敗する、それよりも、繪はどうなつてもよい、飽迄目的物の眞を捉えやうとの決心でやつたなら、何物か得る處があつて、時としては其繪も立派なものになるかも知れない。